

問 船員需給状況及対策  
答 (一) 船員需給人状況

最近一々年間、船員職業紹介成績ヲ見ルニ

船舶職業 求職 一八二二 求人 一、九〇八 成立 一、八〇二

普通船員 求職 八八五 求人 八、九八八 成立 八、七七二

ニテ紹介面ヨリ推測スレバ大体平衡ヲ保チ居リ、且船舶所有者

ノ自由募集ニアリテ現在ノ所 需給状況ハ概テ良好ナリ

然ルニ十九年夏以降 新造船舶 進捗ニ伴ヒ需要ノ急激増

加ニ對應スル爲次、如キ対策ヲ講ゼントス

(二) 需給対策

(1) 船舶職業

計画造船(木造船)ニ對スル船舶職業ノ対策トシテハ社團法人

朝鮮海事報國團ヲシテ乘船履歴ヲ有スル者四〇〇人以上ノ

講習ヲ行ヒ船舶職業ニ應該セシメ、合格者ヲ以テ所要員數

0367

ト克足セシムル見込ナシ

(四) 普通船員

普通船員養成施設修了者、配乗社、社団法人朝鮮  
海軍報国團、船員職業紹介技能ヲ活潑ニシ新規募  
集(新ニ船員タルベキ者)年三〇〇人以上就職  
年一〇〇〇人以上ヲ爲サシメ計函造船柱ニ般船舶ノ需給  
ニ對處ス

0368

問 船貨保護施策

シ努力中ナリ

一、船貨宿泊施設

現有、社団法人朝鮮海軍報國團、經營ニ係ル仁川、釜山及木浦、各宿泊所ヲ改善スルノ外同團ヲシテ更ニ釜山、仁川、元山、清津、群山、鎮南浦及麗水ニ宿泊所設置ノ計畫ニ對シ昭

和ニ十年度豫算ニ計上セリ

船貨保險ニ依ル保養所ハ肅藁、溫陽及朱乙ノ三箇所、休養所ハ清津、元山、浦項、群山及鎮南浦ノ五箇所ナリ

二、船貨生活必需品並ニ鮮食料品ノ配給

船貨生活必需品ノ配給ハ社団法人朝鮮海軍報國ヲシテ行ハシ

メツ、アルモ時局下一段ト敏速用滑ナル配給ヲナスベク機構

ノ充實強化ヲ図ルノ要アルニ付國家補助ヲ強化スル意向ナリ

生鮮食料品ハ船舶ノ特殊事情ヲ考慮シ現地ニ即應スル配給機

三、船貨ノ待遇

昭和十八年一月二十六日閣議決定、船貨ノ待遇ニ關シテハ陸

0369

海軍徴用船舶以外ノ船舶ノ乗組員タル船舶ヲ海軍大臣ニ協議  
 軍屬船舶ト爲シ、又ハ殉職船員ノ公葬ヲ執行シ或ハ全鮮主要  
 港ノ管海官廳ヲ中心ニ關係官廳、諸團體等協力シ船員援護ノ  
 實行ヲ期シツ、アリ  
 尚之ヲ強化スベク日本海員振濟會朝鮮支部設置方交渉中ナリ  
 更ニ船員ヲ待遇官吏ト爲スノ件ハ目下準備中ナリ

0370

開船船港用對策

現下海運情勢逼迫ニ因リ船舶運航能率ノ増進ハ最モ急ヲ要スル處ナルニ鑑ミ左ノ通對策ヲ講シ重要物資海上輸送ノ完遂ヲ期シ

ツツアリ

(イ) 港灣荷役ノ促進

船舶運航能率昂上ハ密接不可分ノ關係ニ在ル港灣荷役力増強ニ在ル處荷役設備ノ擴充強化ハ目下施工中ナルニ付之ニ對應シ沿岸荷役ノ促進強化ニ努メツツアリ

(ロ) 帆走裝置ノ強化

燃料油不足ノ現況ニ鑑ミ船体ノ構造上適當ナル船舶ニ付テハ三本檣ノ改造及之カ船隻ニ對スル帆走操作訓練ノ実施ヲ徹底強化セシメツツアリ

(一) 純帆船の活用  
 海運組合機構に依る純帆船の現統制ヲ海  
 運統制令ノ奉勅ニ依リ朝鮮船舶運航統制  
 株式會社ニ委託運航セシメ純帆船ノ運管  
 ヲ完全ナラシメ徹底的活用ヲ期セントス

(二) 曳航ノ強化  
 重油不足ノ充進並ニ計画造船ノエンジン  
 入手遅延ニ伴ヒ舢又ハ怠勤力船ノ曳航ヲ  
 沿岸輸送ニ試験中ナルカ成績ニ依リテハ  
 對内地間ニモ実施セント計画中ナリ  
 尙機帆船ノ曳航ニ付テモ目下試験中  
 ニンテ之ガ運航方法ノ改善強化ヲ図ラン  
 トス

(三) 運航獎勵金及燃料節約獎勵金ノ支給

0372

(ハ) 一定區間ノ航海標準日數ヲ短縮シタル船舶ノ乗組員ニ對シテハ航海短縮ニ依ル運輸獎勵金ヲ支給シ船舶ノ運輸能率ノ増進並ニ乗組員ノ士氣昂揚ニ努メツツアリ

又之ト併行シ燃料ノ節約ヲ強化スル爲燃料節約獎勵金ノ支給制度ヲ度施中ナリ

(ニ) 官設船舶ノ修理強化

計画船舶ノ新造ト併行シ事故船舶ノ修理促進ニ對シ修理資材ノ確保及之ヲ計画修理制ニシテ期シツ、アリ

(ト) 編筏輸送ノ強化

船腹逼迫ノ現状ニ鑑ミ遊休船ノ轉用ニ依リ浮木造船材ノ後輸送ヲ更ニ強化策施セシメツツアリ

0373

(子) 代燃機用装置へノ転換  
燃料事情最悪ノ事態ニ對應スベク瓦斯機  
装置ノ試験中ニシテ差痛リ沿岸船舶ニ對  
之ガ装置ヲナスベク計画中ナリ

(交通局海事課)

0374



## 問 答

海陸輸送連絡調整ノ方策如何

海陸輸送ノ戰時運営ノ根本的方策ハ陸海運輸ノ線  
 合的運営ニ依ル能率ノ増強ニ俟ツ迅緊要ナルモノ  
 アルヲ以テ昭和十八年十二月一日各港運會社及朝  
 鮮運送ノ全体的一元の整備ヲ完行シ新ニ朝鮮海陸  
 運輸株式會社ヲ設立之ガ輸送ノ完遂ニ努力中ナリ  
 而テ政府輸送連絡ノ方法及調整ハ大陸輸送協議會  
 ニ於テ關係運輸機關ト協議ノ上毎四半期ニ於ケル  
 輸送ノ計画方針ヲ策定輸送ノ萬全ヲ期シ居リ、又  
 現地機關トシテハ海陸輸送協議及主要港毎ニ現地  
 連絡委員會ヲ設置シ極力輸送ノ円滑ヲ図リ居レリ

0375

問、航路標識防空施設

答、航路標識ニ対スル防空施設ハ有看守標識、無線連絡及無看守標識

ノ急遽ナル點消燈施設(電波光波ニ依リ)ヲナスニアリ時局下最モ緊

要ニシテ軍ノ要望ニ基キ昭和十五年度以降朝鮮沿岸ノ重要ナル航

路標識ニ対シ北鮮地方ヨリ順次之ヲ施設ヲナシ目下南鮮海岸地方

ノ航路標識ニ対スル施設実施中ニシテ昭和十九年度ヲ以テ麗水以

東ハ路施設完了スベク昭和二十年度ヨリハ二箇年繼續費總額一七

六四〇〇〇月ヲ以テ仁川及海州附近ノ航路標識十三箇所ニ対シ実

施計畫ヲ樹立シ目下豫算要求中ナリ昭和十五年度以降ニ於ケル年

度別ノ施設箇所左ノ通りトス

昭和十五年度

東海岸 二一箇所

南海岸 八箇所

昭和十六年度

東海岸 二箇所

南海岸 五箇所

昭和十七年度

0376

南海岸

三箇所

0377

問 青少年航空訓練ノ實施狀況

答 朝鮮ニ於ケル航空訓練ハ決戰下其ノ重要性ノ増大ニ鑑ミ昭和十八年十月朝鮮總督府ニ於テ策定セル「青少年航空訓練實施要綱」ニ依ル訓練ヲ更ニ強化實現シツツアリ 而シテ之ガ

航空訓練ノ現況左ノ如シ

(1) 昭和十八年四月以來京城府内ニ於ケル大學專門學校ノ學生二十名ニ對シ實施中ニシテ本年度卒業生ハ何レモ陸海軍探縦學生ヲ志願セリ

(2) 飛行機整備訓練

十九年一月以降實施中ニシテ國民學校卒業程度ノ者ニ對シ約三月間教育シ飛行機整備ノ初步的技能ヲ授ケ在鮮飛行部隊及飛行機製作會社等ニ就職セシメ居リ第一期養

成人員四十名ナリ

又中等學校三學年修業程度ノ者ニ對シテハ六月ノ教育

0378

ヲ実施スルコトシ現在二十名ヲ養成中ナリ

(1) 昭和十一年來実施中ニシテ中等學校以上ノ各學校ヲ主  
 本邦ニ在リテ實施團體數約一五〇訓練人員約四〇〇人ナ  
 リ訓練用機材ニ就テハ鮮内六ヶ所ノ製作所ニ於テ  
 初級機及飛航ゴム索ノ製作ニ従事シアルガ生産狀況左  
 ノ通ナリ

區 別	昭和十八年度	同十九年度見込
初級滑空機	一一九機	一八〇機
ゴム索	一五〇箇	三〇〇箇

(2) 模型航空機訓練

国民學校児童及中等學校下級生ヲ對照トスルモノニシテ之ガ  
 指導者ノ養成ヲ全鮮各所ニ開催スルト共ニ教材タル模型  
 航空機ノ鮮内自給ヲ圖ル爲鮮内ニ二社ノ製作所ヲ設立  
 セシメタリ 之ガ生産能力ハ年産約二百萬機ナリ

(交通局航空課)

朝鮮ニ於ケル航空機工業ノ現況及將來

朝鮮ニ於ケル航空機工業ノ現況及將來

朝鮮ニ於ケル航空機工業ハ内地ニ比シ著シク立達レノ狀  
 態ニ在リシガ昭和十七年七月先ヅ三井鉦山株式會社朝鮮  
 飛行機製所設立セラレ茲ニ半島航空工業ノ發足ニ一時  
 期ヲ劃シタルモ今次大東亞戰爭勝利ノ鍵ハ一ニ航空戰力  
 ノ充實ニ在ル今日ノ狀勢ハ半島同胞ニモ多大ノ感銘ヲ與  
 ヘ航空機工業株式會社及朝鮮航空工業株式會社ノ設立ヲ見  
 リ朝鮮ニ於ケル航空工業ノ指道培養方針トシテハ右三社ヲ  
 シテ斯業ノ中核体トナシ萬難ヲ排シ所期ノ成果擧揚ニ邁  
 進セントス

而シテ右三社ノ工場所在地ハ左ノ通ニシテ朝鮮全域ヲ大  
 体三區劃ニ分テ各其ノ地域内ニ敷在セル地方機械工場等  
 ヲシテ其ノ下請工場タラシムベク整備強化スルト共ニ精  
 度向上ヲ計リ尙發動機プロペラ及機能部品製業者ヲ内  
 地ヨリ誘致シ全鮮的ニ航空工業ノ統制アル指導方針ヲ確

0380

立ヨ期ス  
 由來思マレタル半島地下資源並ニ豊富ナル電力更ニ比較  
 的獲得容易ニシテ低廉ナル勞務者、適正配置ハ航空工業  
 の立地條件トシテ好條件ナルハ論ヲ俟タザル所ナルモ建  
 設資材及工作機械類ノ不足ハ半島ニ於ケル新業ノ進展ヲ  
 著シク阻害セル實情ナリ之ガ隘路打開コソ刻下ノ急務ナ  
 リトス

記

名

稱

所

在

地

三井鉱山株式会社朝鮮飛行機製作所  
 朝鮮飛行機工業株式会社  
 朝鮮航空工業株式会社

平壤府美林町六三番地  
 京畿道始興郡安養里  
 釜山府釜岩里五二番地  
 京府永登洞区新谷町四番地

航空輸送事業ノ現況ト之ヲ助成方針

(一) 航空輸送事業ノ現況

朝鮮ニ於ケル定期航空路ハ昭和十六年十月以降「ガソリン」消費  
規正ノ立場ヨリ漸減シ大東亞戰爭勃發ニ伴ヒ激減シ其ノ間若干ノ  
運送アリタルモ目下一般定期航空ハ全面的ニ休航シ朝鮮ヲ通過ス  
ル定期航空ハ新京「マニラ」線(週一往復)新京東京線(週ニ往  
復)ノ專用定期ノミナリ

(二) 助成方針

助成方針トシテハ一般定期航空ニ付テハ航空輸送事業ノ政策的性  
質ト會社經營ノ収益性乏シキ實情ニ鑑ミ業者ノ指導監督ヲ行フ一  
面補助金ノ交付、税金ノ免除等ノ方法ヲ以テ事業ノ發展助長ヲ計  
リテ、アリ

0382



## 一 飛行場整備ノ状況如何

朝鮮ニ於ケル定期航空ハ大東亞戰爭勃發ニ伴ヒ激減目下全面的ニ休航シ飛行場ハ凡テ軍用ニ供シ居ルモ戦局ノ進展ニ伴ヒ國防上其ノ整備擴充益々緊急ノ度ヲ加ハツ、アリ

而シテ既設飛行場ハ現在京城第一、京城第二、新義州、清津、大邱、咸興、光州、裡里、蔚山、江陵、海州、大田、吉州、汗浦、烏山、春川、十六飛行場ニシテ最近飛行機ノ大型化ニ伴ヒ京城第一、新義州、光州、蔚山、海州、大田ハ何レモ軍ニ於テ中ナリ。尚軍要望ニ依リ平壤飛行場新設工事ハ目下鋭意工事施行ヲ急ギツ、アリ。之等飛行場中主要ナルモノハ格納庫、氣象觀測所及無線電信施設等ノ設備ヲ有ス

0383

問答

物動計画ニ依ル物資配給制限ノ影響及其ノ対策

昭和十九年度ニ於ケル物動計画運送ハ戦局ノ推移ニ左右  
ナル所大ナルニ鑑ミ從来ノ如ク年間物動ヲ決定スルコ  
トナク各四半期毎ニ物動計画ヲ策シ刻々変轉スル状態ニ  
對應スル爲物動配当上モ又現品配當上モ機動的調整ヲ圖  
ルニ至リタリ  
殊ニ戦局ノ重大化セラル第二四半期以後ニ於ケル物動圧縮  
ハ特ニ甚ダシク之ガ爲兵站基地トシテ重要ナル地位ヲ占  
ムル朝鮮固有鉄道諸施設ノ計画的遂行ヲ期シ得ザル状況  
ニ立至リタルノミナラズ決戦下最モ重要ナル大陸轉嫁貨  
物増送並ニ鮮内重要物資輸送ノ完遂ニ萬全ヲ期シ得ザル  
状態ニアリ

(一) 鋼材

鋼材ニ付テハ昭和十八年度末ニ於ケル未入手分ニ對ス  
ル打切整理ニ依リ十八年度中ニ入手シタルモノハ物動  
配當ニ對シ約六三%ニ過ギザルニモ拘ラズ昭和十九年  
度ニ於テモ更ニ年間假割當ニ對シ約三六%ノ削減ハ免

0384

(二)

レザル情勢ニアリ然モ之ガ入手期遅延並ニ線材製品及鉄筋材ノ入手難ハ五事ノ進捗ヨ著シク阻害シツツアリテ其影響スル処甚大ナリ依テ實施ニ當リテハ特ニ慎重ヲ期シ重卓的配当ニ努メ居レリ

鋼材ノミナラズ非鉄金屬類モ極力節約スル一方代用品ノ考案實施ニ努メツツアルモ激増ノ一途ヲ辿ル輸送要請ニ對應センガ爲維持補修ハ極度ニ圧縮シ之ガ資材ハ擧ゲテ輸送力ノ増充方面ニ充當スルハ蓋シ已ムヲ得ザル処ナリ

木材  
木材ハ十九年度ニ至リ極度ニ逼迫ヲ告ゲツツアル現狀ニシテ特ニ重輛用材ハ鮮内ニ適材ナク全面的ニ濠州材ニ依存シ居リ之ガ現存迄ノ計畫ニ對シ僅カニ一五%ノ入手ヲ見タルニ過ギズシテ重輛修繕ハ勿論新車計畫ニモ齟齬ヲ未シツツアル爲目下之ガ打開策ニ付交渉中ナリ

次ニ枕木ニ就テハ京釜、京義兩幹線ノ緊急複線工事完成ニ伴ヒ非常手段トシテ保守用枕木ヲ充當スルト共ニ道路ノ並木「ボプラ」アカシヤ等ヲ代採シ急場ヲ凌ギ居レル狀況ナリ

0385

(三) 石炭

運轉用石炭類ハ其ノ使用量年々激増シ来レルモ鮮内尙煙  
 炭ハ褐炭ノミニシテ機關車ニ軍用運轉困難ナルノミナラ  
 ズ出產量ハ需要量ノ増加ニ及バズ  
 又昭和十八年度ヨリ無煙炭ノ生焚ニ總工ル努力ヲ払ヒ大  
 量ノ使用ヲナシタルモ焚火至難ニシテ石炭使用量激増ス  
 ルノミナラズ列車運送事故頻發シ主要幹線列車運轉ニハ  
 不適當ナリ從ツテ運轉用石炭ノ大部分ハ九州、樺太、滿洲及  
 北支等ノ輸入炭ニ依リテキ實情ニアリ然ルニ  
 昭和十九年八月以降船舶事情頓ニ惡化シ樺太炭ノ輸入杜  
 絶九州炭モ亦入荷不円滑トナリタルヲ以テ滿洲、北支炭ニ  
 依存スル割合増大セシモ北支炭ハ地元ノ治安及輸送關係  
 上入手實蹟ハ計畫量ノ六七割ニシテ加之下期以降朝鮮有  
 煙炭ノ出炭激減シ一方代用粘結劑ノ使用ニ依ル煉炭ノ生  
 産ハ未ダ完成ノ域ニ達セズ  
 以上ノ如キ狀況ニアルヲ以テ亦二四半期以降九州炭ノ入  
 荷不足ニ對シテハ一部海軍煉炭ヲ讓リ受クル等非常措置

0386

(四)

講ダラレタルモ尙貯炭量毎月激減シ遂ニ十一月下旬之  
 ガ逼迫ニヨリ列車運転ノ一部ヲ取消スニ至リタリ  
 爾後嚴寒期ヲ控ヘ運転用石炭ノ確保ハ極メテ憂慮セラル  
 情勢ニアルヲ以テ鮮産有煙炭及煉炭ノ増産ニ劃期的方  
 途ヲ講ズルト共ニ漳州ヨリ傳真炭ノ増加補給ヲ受クルコ  
 十最ヲ緊要ナリ  
 油脂類  
 油類ニ在リニモ甚ダシク逼迫ノ状態ニアルヲ以テ極力  
 消費節約ニ努ムルト共ニ可及的植物油ヲ原料トスル代用  
 油ノ使用ヲ考究中ナリ

（交通局資材課）

0387

命令航路ノ状況  
 時局ノ急激ナル進展ニ伴ヒ航路ノ重要使命ハ愈々瞬時ノ解  
 急先緩ヲモ許サザルモノアルノ故朝鮮ニ於ル航路ヲ設け  
 八尚政府補助ノ下之ヲ助長運航セシメ重要物資ノ可及的輸  
 送ニ邁進セシムルト共ニ決戦下生産戦力ノ増強ニ寄與セシ  
 ムルノ要極メテ大ナルモアリ  
 而シテ本年四月以降ノ更新命令ニ於テモ時局ノ要請ニ伴フ  
 重典主義輸送ノ圓滑ヲ期シ重要物資ノ急送荷客ノ輻奏ニ對  
 應ヒシムル等銳意施設ノ改善ヲ計リタリ然ルニ近時東邊道  
 地區ニ於ケル産業ノ勃興ニ伴ヒ其ノ利用價值尠カラザルモ  
 ノアルヲ以テ本年新ニ鴨綠江河航路水豊楚山線ヲ開設命  
 令航路ノ特殊使命ニ萬全ヲ期シツツアリ今其ノ施設内容ハ  
 別表ノ通り近海航路ニ線沿岸航路三線河川航路一線計六線ニ  
 シテ大陸兵站基地朝鮮ノ生産力拡充ニ貢獻スル所極メテ大  
 ナルモノアリ

0388

昭和十九年度命令航路一覽表

航路名		航路		計		航路		航路	
釜山博多線	釜山	釜山博多線	釜山	釜山博多線	釜山	釜山博多線	釜山	釜山博多線	釜山
西鮮青嶼	上海線	西鮮青嶼	上海線	西鮮青嶼	上海線	西鮮青嶼	上海線	西鮮青嶼	上海線
船種	船種	船種	船種	船種	船種	船種	船種	船種	船種
鋼製	鋼製	鋼製	鋼製	鋼製	鋼製	鋼製	鋼製	鋼製	鋼製
最速	最速	最速	最速	最速	最速	最速	最速	最速	最速
七以上	七以上	七以上	七以上	七以上	七以上	七以上	七以上	七以上	七以上
隻數	隻數	隻數	隻數	隻數	隻數	隻數	隻數	隻數	隻數
一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上
補助金	補助金	補助金	補助金	補助金	補助金	補助金	補助金	補助金	補助金
現在配	現在配	現在配	現在配	現在配	現在配	現在配	現在配	現在配	現在配
船名	船名	船名	船名	船名	船名	船名	船名	船名	船名
大原丸	大原丸	大原丸	大原丸	大原丸	大原丸	大原丸	大原丸	大原丸	大原丸
命令	命令	命令	命令	命令	命令	命令	命令	命令	命令
期間	期間	期間	期間	期間	期間	期間	期間	期間	期間
受命者	受命者	受命者	受命者	受命者	受命者	受命者	受命者	受命者	受命者
朝鮮郵船株式会社	朝鮮郵船株式会社	朝鮮郵船株式会社	朝鮮郵船株式会社	朝鮮郵船株式会社	朝鮮郵船株式会社	朝鮮郵船株式会社	朝鮮郵船株式会社	朝鮮郵船株式会社	朝鮮郵船株式会社
九州郵船株式会社	九州郵船株式会社	九州郵船株式会社	九州郵船株式会社	九州郵船株式会社	九州郵船株式会社	九州郵船株式会社	九州郵船株式会社	九州郵船株式会社	九州郵船株式会社
日本汽船株式会社	日本汽船株式会社	日本汽船株式会社	日本汽船株式会社	日本汽船株式会社	日本汽船株式会社	日本汽船株式会社	日本汽船株式会社	日本汽船株式会社	日本汽船株式会社

0389

計	河川航路	計	航路	岸
一	水 楚山線	三	荅 濟州島線	木 濟州島線
	八		一〇	一二
	一〇		三〇〇	二〇〇
	二		一	二
	年二一〇		年九〇	年三三〇八
三三〇〇〇	三三〇〇〇	九五〇〇〇	一〇〇〇〇	二九〇〇〇
	龍安丸 一八〇八 天安丸 一二五九		新光丸 二九二九 代見丸 二九二九 代見丸 二九二九 白元丸 三三三六	大西丸 三三八三 代見丸 三三八三 代見丸 三三八三
	朝鮮航路江航運株式会社			

0390



昭和十九年度命令航路寄港地一覽表

航路	航路	航路	寄港地	航海回数	受命者	備考
新海航路	釜山、浦項、海州、釜山	釜山、浦項、海州、釜山	釜山、浦項、海州、釜山	月 二回 年 二四回	朝鮮郵船株式会社	
新海航路	釜山、浦項、海州、釜山	釜山、浦項、海州、釜山	釜山、浦項、海州、釜山	月 一五回 年 一八回	九州郵船株式会社	
新海航路	釜山、浦項、海州、釜山	釜山、浦項、海州、釜山	釜山、浦項、海州、釜山	月 四回 年 四八回	西日本汽船株式会社	

0391



西鮮青島上海線業務成績及收支計算

年度	船隻	航路	送還教	荷物	人員	收入	支出	差引	補助金	差引
昭和十六年	三	五三九五	四三	六八八四	二九三三	四五九七	三、〇〇、一六七	二、六六、四六二	一、三三、〇〇六	二、三三、〇〇八
昭和十七年	一	二六三二	二一	二九五七	六六六五	二、六五七	五、三三八	四、一四九	三九、六九二	八〇、三四二
昭和十八年	一	一六三二	一七	二四、四五七	八三三三	八七二	六九、七四〇	三、八九、六三六	三〇、九二〇	三三〇、六六〇

釜山博多線業務成績及收支計算

年度	船隻	航路	送還教	荷物	人員	收入	支出	差引	補助金	差引
昭和十六年	一	一八〇	一五	三、七九	四九六三	六、六〇四	三、六八七	三、〇一七	一、七九二	一、二九〇
昭和十七年	二	三三三	二四	四〇、二七	三三、〇四	一、〇、六〇三	五、四、二八三	九、八〇四	三三、四七九	一、三二五
昭和十八年	一	一八〇	一一	三〇、九六	三五、三四五	八、三六七	四、〇、三八三	三、七、二四一	三〇、五、五七	三、四、一七

釜山嶺南島線業務成績及收支計算

年度	船隻	航路	送還教	荷物	人員	收入	支出	差引	補助金	差引
昭和十六年	五	一、五五三	五	三、三二	一〇、三五六	五、七九五	八、三、四三三	二、五、六八二	一、四、八八一	三、七、六二
昭和十七年	三	二、九三	四六	二、三四七	九、一三三	六、三九四	九、七、五〇三	一、二、四三二	二、九、八六九	二、三、七四八
昭和十八年	三	九四五	三八	一、七五八	九、三五四	五、八七	七、九、二四	一〇、三、七〇	一、九、三三六	三、四、五三

0393



區分		年度別	總收入	總支出	差引損(△)益備	考
九	州	昭和十六年度	一、二八三、四五二、一六	九四九、〇六八、一	三三四、三四、三五	
		全十七年度	五七四、六九八、一九	四四三、七三、五九	一三一、五二四、六〇	
		全十八年度	五二五、九〇三、七五	三六三、三七七、五五	一五二、五二六、二〇	
西	本	昭和十六年度	三四四、一六九、二五	三一五、二九六、一九	二八、八七三、〇六	
		全十七年度	六二七、〇三九、〇八	五一九、六五〇、五四	一〇七、三八八、五四	
		全十八年度	六七〇、九六四、七一	六三八、六三〇、七一	三二、三三四、〇〇	
鴨	江	昭和十八年度	四七七、七五九、〇四	四六三、三三九、〇四	一四、四二〇、〇〇	
		運				

0395

歳入徴収額計算書附属証憑書

全 冊之内第 號  
 昭和 年度 年 月 分

此紙數 枚

朝鮮總督府鐵道局

金	金	金	金	金	金	内	合金	高金		

(16、6、日新納)

0396